

特 別 寄 稿

第61回日本癌治療学会学術集会

認定がん医療ネットワークナビゲーター検証ワーキングと生涯教育
ワーキングによる合同ワークショップ

「がんナビの生涯教育」について話し合おう！

吉田 稔^{*1} 森田 勝^{*2} 南 秀明^{*3} 吉田 雅行^{*4}
清家 正博^{*5} 調 憲^{*6}

^{*1} 日本赤十字社熊本健康管理センター

^{*2} 独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター

^{*3} 独立行政法人地域医療機能推進機構 人吉医療センター

^{*4} 聖隷健康診断センター・NPO 法人 いかまい検診浜松

^{*5} 日本医科大学附属病院 呼吸器内科

^{*6} 群馬大学大学院 総合外科学講座

はじめに

日本癌治療学会認定がん医療ネットワークナビゲーター（以後ナビゲーター）制度は、2014年に発足し10年の時を経た。2024年7月現在、ナビゲーター453名、シニア・ナビゲーター80名を認定している。制度がよりよく機能するように、内容や体制を検討する目的で「がん診療連携・認定ネットワークナビゲーター委員会」が活動しており、下部組織として現状を検証する目的で「検証ワーキング」が、広報を行う目的で「広報ワーキング」が活動している。

2022年10月21日第60回日本癌治療学会学術集会において「認定がん医療ネットワークナビゲーターによる検証ワークショップ」が開催された。アンケート調査報告、シニアナビゲーター資格更新申請書分析、3人の現役ナビゲーターによる現状報告に基づき議論がなされ、いくつかの課題が浮き彫りとなった。特に1) ナビゲーターの広報、2) ナビゲーターの生涯教育に焦点が当てられた¹⁾。

「ナビゲーターの広報」に関しては、2023年3月に閣議決定された「第4期がん対策基本計画」²⁾で3. がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築（1）相談支援及び情報提供 ①相談支援についての項で「社会的人材リソースを活用」と記載されたことを機に、都道府県がん対策協議会及びがん診療拠点病院等への広報活動を強化した。「ナビゲーターの生涯教育」に関しては、新たに「がん医療ネットワークナビゲーター生涯教育ワーキング」を設置した。

継続した生涯教育を実施するためには、多くの解決すべき課題がある。実装可能な二つの方略から開始することとした。

一つはインターネットがん情報リテラシーの強化である。信頼できかつ利用しやすいインターネットサイトの紹介と評価である。二つ目は、Updateされた情報の提供である。ナビゲーターのニーズに添い、かつ担当者の負担が大きすぎず、継続可能な枠組みについて議論を開始した。

2023年10月21日第61回日本癌治療学会学術集会ににおいて「認定がん医療ネットワークナビゲーター検証ワーキング生涯教育ワーキングによる合同ワークショップ」が開催された。インターネットがん情報リテラシーに関するアンケート調査と生涯教育に関するニーズ調査の報告、生涯教育「先生と語ろうー乳がんについてー」(別稿)の講義、総合討論がなされた。本稿ではインターネットがん情報リテラシーに関するアンケート調査と生涯教育に関するニーズ調査の報告を行う。調査結果から、ナビゲーターのがん情報に関するインターネット情報リテラシーが優れていることが確認できた。生涯教育では、相談技法に関するニーズが大きいことが明らかとなった。

インターネットがん情報リテラシーに関するアンケート調査と生涯教育に関する ニーズ調査の報告

1 アンケートの計画及び実施期間

がん診療連携・認定ネットワークナビゲーター委員会・検証ワーキンググループ、生涯教育ワーキンググループ。

期間：2023年7月18日～2023年8月31日。

2 対象と方法

認定がん医療ネットワークシニアナビゲーター・ナビゲーターを対象とした。無記名アンケートとし、e-mailで依頼しweb回答を得た。

3 回答項目

- ① ナビゲーターの属性、資格、主に活動しているネットワーク。
- ② 利用したことのあるWeb site上の「がん」に関する情報の入手先、利用頻度（利用頻度の高い順 一位～三位）、信頼度（信頼度の高い順 一位～三位）。
- ③ ChatGPT®について利用経験、ナビゲーター業務における信頼性、推奨、将来性、相性。
- ④ 生涯教育ワーキンググループからのニーズ調査、更なる情報・最新の情報を希望するe-learning項目。

4 回収・集計

回収率：80名/705名、11.3%。

対象者内訳：ナビゲーター614名、シニア・ナビゲーター91名。

回答者内訳：ナビゲーター49名、シニア・ナビゲーター30名、無記載1名。

5 結果と分析（解析したアンケート結果の一部を示す）

*ナビゲーター、シニア・ナビゲーター、無記載をナビゲーターとして一括集計した。質問項目によっては欠損値が存在した。

① ナビゲーターの属性、資格、主に活動しているネットワーク。

年齢:10～20歳台1名, 30歳台5名, 40歳台27名, 50歳台21名, 60歳台23名, 70歳台以上2名, 無記載1名。

50歳以上が58.8%を越え高齢化が以前の調査(1)より進んでいる。

自認する性:男性24名, 女性56名。

現在持っている資格(図1a):薬剤師, 何らかの研修を受けたピア・サポーター, の順で多く半数を超過している。その他の資格は脚注(1)に記載した。

主として活動している場・ネットワーク(図1b):保健調剤薬局, がん診療連携拠点病院, がんサロン, の順で多く6割を越えており, 診察室の外の場にもがん相談のニーズが存在することを示している。その他の活動場所は脚注(2)に記載した。

② 「がん」に関する情報の入手先

利用したことのある「がん」に関する情報の入手先(図2):一般社団法人 日本癌治療学会, がん情報サービス, 特定非営利活動法人 日本緩和医療学会, 公益社団法人 日本対がん協会, 公益社団法人 日本臨床腫瘍学会, 一般社団法人 日本乳癌学会の順であった。その他は脚注(3)に記載した。地域の自治体や相談対象となる病院のホームページ等, 地域に根ざした情報収集が行われている実態が認められた。

利用頻度の高いWeb site 一位～三位(図3):がん情報サービス, 一般社団法人 日本癌治療学会, 公益社団法人 日本臨床腫瘍学会の順であり, がん情報サービスの利用頻度が圧倒的に多かった。

信頼度の高いWeb site 一位～三位(図4) がん情報サービス, 一般社団法人 日本癌治療学会の信頼性が評価されていた。

アンケートに回答したナビゲーターという限界はあるが, インターネット上でのがん情報リテラシーは極めて高く, 地域に根ざした情報収集もなされていることが判明した。

③ ChatGPT®に関する調査

最近のAIの進歩と展開には目を見張るものがある。中でもチャットボット生成AIの一つChatGPT®の普及が進んでいる。学会としてもナビゲーターがこれらのAIをどのように認知し利用しているかの実態調査を行い今後の展開を検討する必要がある。今回ChatGPT®について予備的な調査を行った。

ChatGPT®の利用経験:25/80(31%)人のナビゲーターが利用したことがあった。

ChatGPT®使用経験のあるナビゲーターの評価は以下の通りである。

・信頼性:使用経験者にナビゲーター業務上で信頼できるか調査した。とても信頼できる+やや信頼できるが70%, やや信頼できない+全く信頼できないが30%であった。

・周囲に勧めるか:積極的に進めたい+やや勧めたいが73%, やや勧めたくない+全く勧めたくないが27%であった。

・将来性に関して:大きな将来性がある+やや将来性があるが87%, 普通7%, やや将来性はない+全く将来性はない6%であった。

・ナビゲーター業務との相性に関して:とても相性が良い+やや相性が良い33%, 普通50%, やや相性が悪い+全く相性が悪い17%であった。

使用経験のあるナビゲーターは, 信頼性, 将来性は認めるが, ナビゲーター業務との相性では評価が分かれた。生成AIの長所である迅速性や効率性は評価するものの, 短所である正確性に懸念を呈したと思われる。アンケートに回答したナビゲーターという限界はあるが, 生成AIが作成した解答を自身で

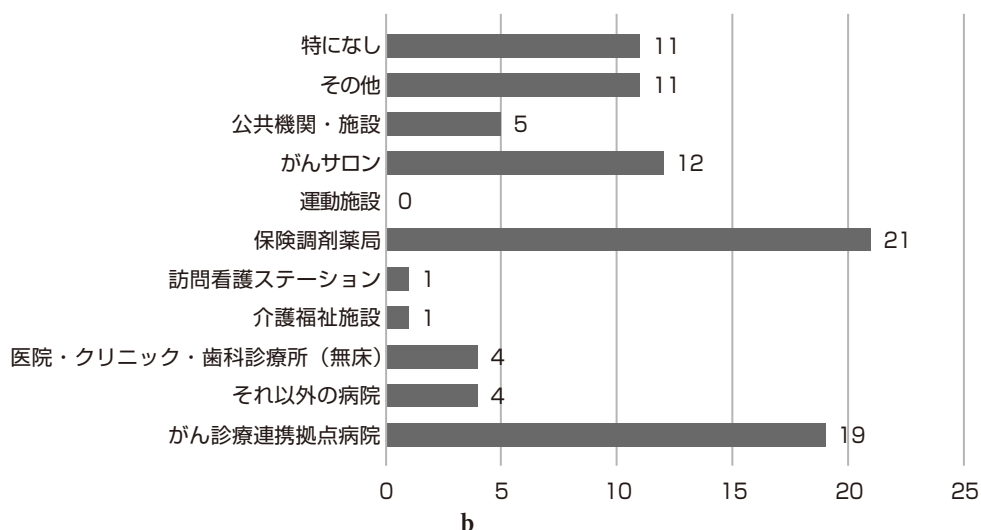
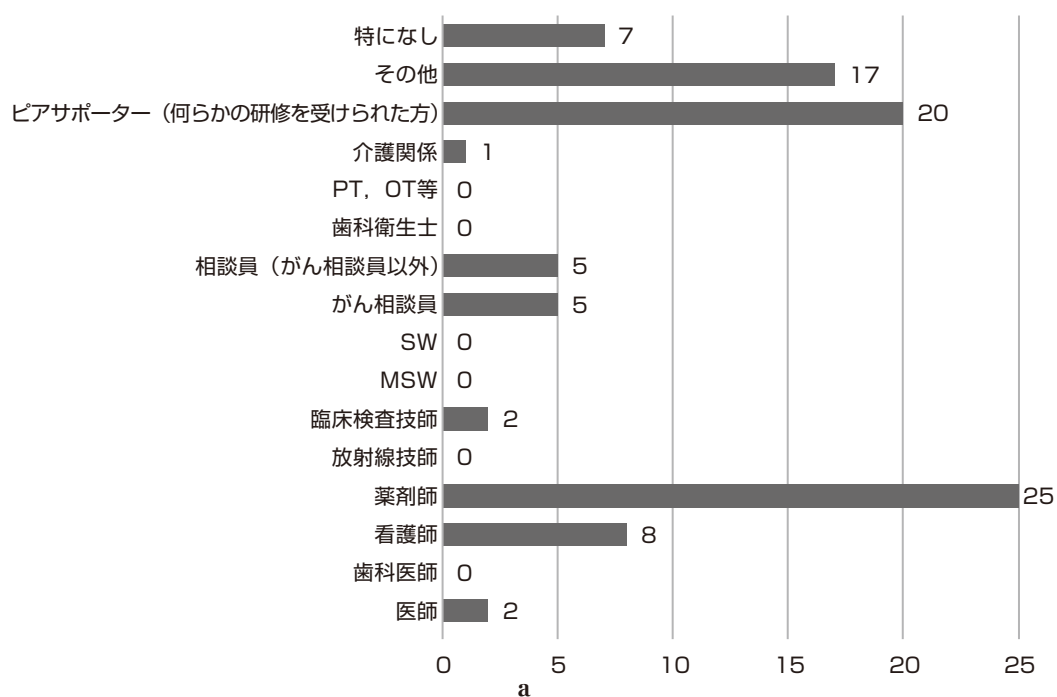


図1

a: 現在持っている資格.

b: 主として活動している場・ネットワーク.

脚注 (1) 図 1a: 現在お持ちの資格その他: MR, がん登録中級資格認定者/診療情報管理士, シニアネットワークナビゲーター, ソシオエステティシャン, メディカルアシスタント, 医療経営士, 医療事務, 栄養士免許, 公認心理師, 産業カウンセラー, 行政書士, 産業カウンセラー, キャリアコンサルタント, 医事事務員, 社会福祉士, 精神保健福祉士, 診療情報管理士/院内がん登録実務 (中級)/医療経営士 (三級), 足もみマッサージ師, 調剤薬局事務員, 医療事務員, 登録販売者, 乳がん体験者コーディネーター (BEC), 保険調剤の薬剤師等.

脚注 (2) 図 1b: 主として活動している場・ネットワーク: オンラインコミュニティ, パーソナル美容ケアサロン, ホームホスピス, 院内患者会世話人, 企業の医療相談員, 健康保険組合, 社内, 大学, 地域の「暮らしの保健室」, 町なかがんサロンと患者会等.

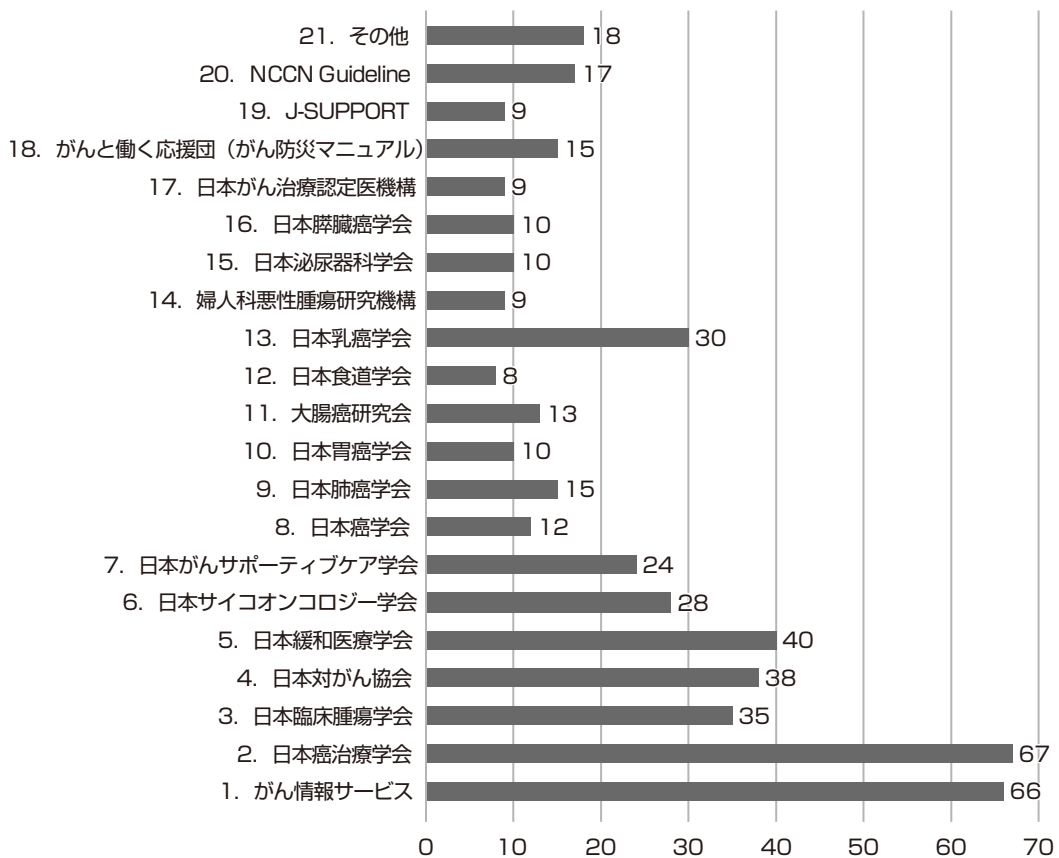


図2 利用したことがある「がん」に関する情報の入手先

総合的に評価する能力を持っていると推測された。

一方で使用経験のないナビゲーターの評価は以下の通りである。

・信頼性：とても信頼できる＋やや信頼できるが11%，普通59%，やや信頼できない＋全く信頼できないが30%であった。

・現時点で使用したい＋積極的に使用したい＋やや使用したいが47%，普通32%，やや使用したくない＋全く使用したくないが21%であった。

・将来性に関して：大きな将来性がある＋やや将来性があるが67%，普通29%，やや将来性はない＋全く将来性はない4%であった。

・ナビゲーター業務との相性に関して：とても相性が良い＋やや相性が良い30%，普通47%，やや相性が悪い＋全く相性が悪い23%であった。

脚注 (3) 図2：利用したことがある「がん」に関する情報の入手先：CNJ（キヤンサーネット）、PDQ、がんサロン、JCOG、がんサポート、がん対策情報・東京都がん対策、各種がん情報・神奈川県がんサポートハンドブック他、日本対がん協会、厚生労働省がん対策基本法関係、がん診療連携拠点病院、日本臨床腫瘍学会、jaspo-oncology.org、国立がんセンター中央病院、厚生労働省、がん防災チャンネル、日経メディカル、製薬会社の情報・HP、メディカルオンライン、がんナビ、ヨミドクター、がん対策推進企業アクション、がんネットなら、医療経営、病院情報局、患者が通院している病院のHP、慶応大学鶴岡研究所、昭和大学先端癌治療研究所、広島癌治療研究所、相談したい病院の情報、がん情報サイト「オンコロ」、乳がんブラザ、腺友ネット、兵庫県HP：がん診療連携拠点病院等の概要、他都道府県のがん診療連携拠点病院等の概要。

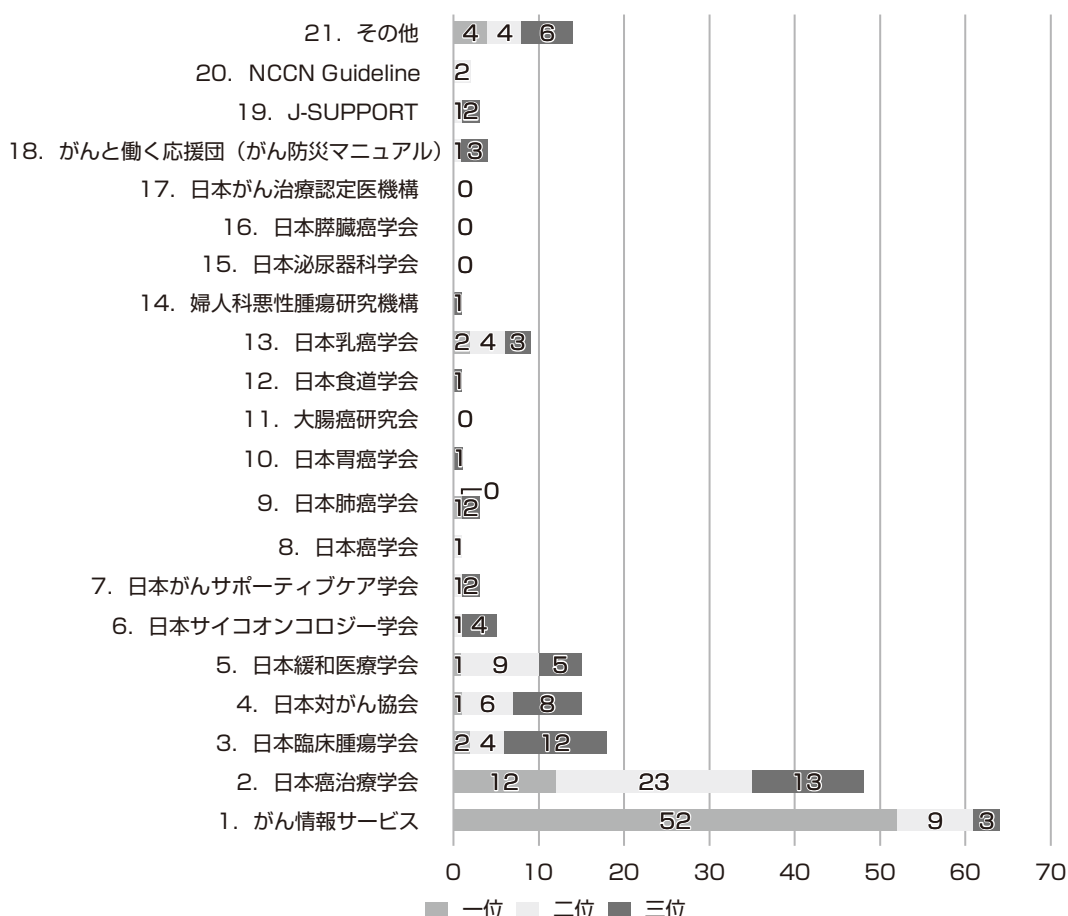


図3 Web siteで利用頻度の高い順 (一位～三位)

現時点で使用経験のないナビゲーターにとって、信頼性に疑問が残るが使用してみたいし将来に期待できると評価する傾向を認めた。

学会として今後も生成 AI に関する情報を取り上げて発信していく必要があると考えられた。

④ 生涯教育に関するニーズ調査

ナビゲーターは資格習得のため、e-learning で 42 項目の講義を履修することが求められている。講義内容は Essential であり陳腐化しにくいものではあるが、日々進歩するがん医療において適宜 Update が求められる部分も存在する。更なる情報を希望される講義のニーズ調査を行った (図 5a, b)。ほとんど全ての講義にニーズが存在したが、「がん」に関する各論よりも、相談業務 (技法) に必要な講義 (がん医療におけるコミュニケーション、がん相談支援において必要な知識とスキル、がん心理支援 (カウンセリング))、総論 (がんゲノム医療 (公開予定)、家族・遺族ケア、在宅医療と地域連携、退院支援、高齢者 / 認知症、ピアサポート (公開予定)、地域医療連携、患者教育、AYA 世代のがん医療 (公開予定)、免疫療法 (公開予定)) のニーズが上位を占めた。これらの中には順次公開予定の項目もあるが、学術大会の機会に新しい情報を提供することも検討する必要がある。

「がん医療ネットワークナビゲーターの役割について」のニーズが上位に存在した事実に注目したい。制度発足当初から漠然と受け止められてきたナビゲーターの役割を再度明確化する必要がある (図 6)。

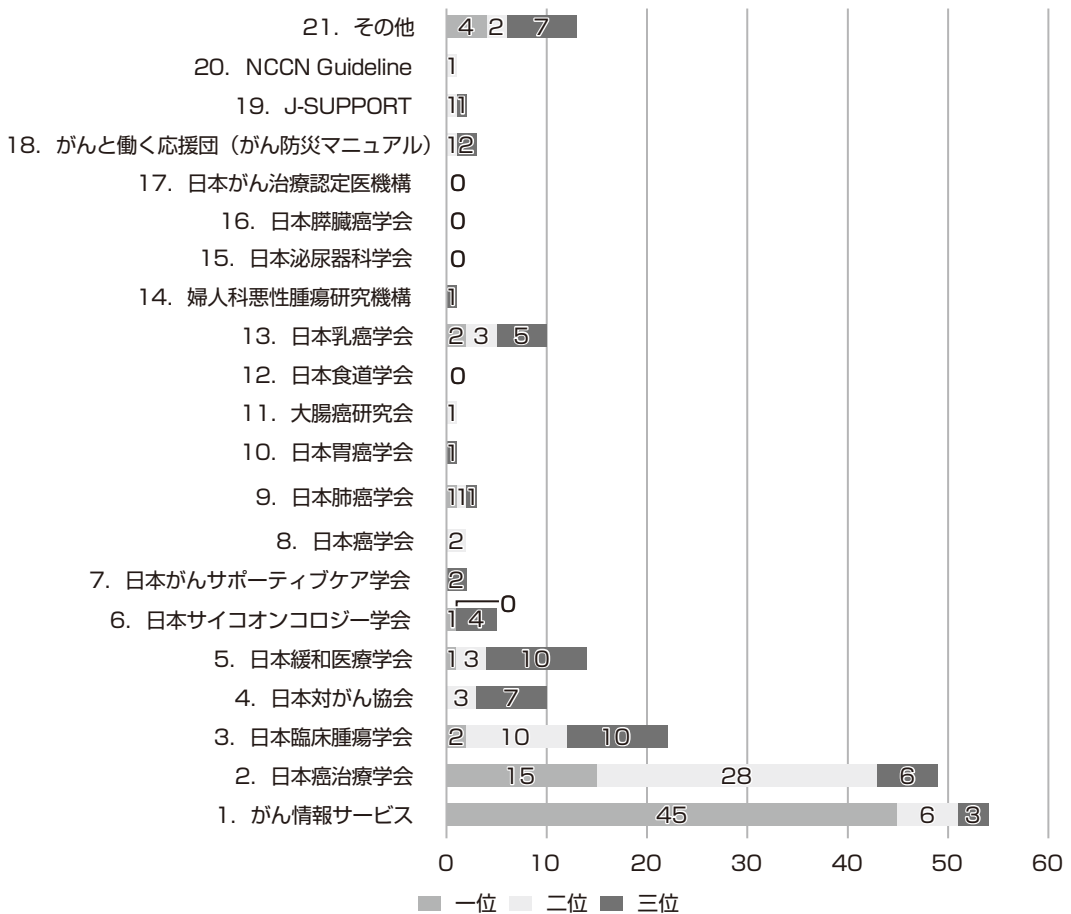


図4 Web siteで信頼度の高い順 (一位～三位)

まとめ

第4期がん対策基本計画では、「国は、拠点病院等と民間団体による相談機関やピア・サポーター等との連携体制の構築について検討する。あわせて、相談支援の一層の充実を図るため、ICTや患者団体、社会的人材リソースを活用し、必要に応じて地方公共団体等の協力が得られる体制整備の方策について検討する。」と明記され、社会的人材リソースとしてナビゲーターが想定された。がん診療の現場で奮闘している医療者の間では、ナビゲーター制度の周知は未だ十分とはいえず、理解も進んでいない。「どんな人材かわからない、標準的でない医療情報を提供されるのでは」との懸念が聞かれることもある。

今回の調査で、アンケートに回答されたナビゲーターという限界はあるが、頻回に閲覧し信頼するsiteとして「がん情報サービス」「日本癌治療学会」「日本臨床腫瘍学会」が挙げられた。がん情報リテラシーが極めて高いと推測される。同時に、各地域の自治体、医療機関のsiteも積極的に閲覧され、地域に根ざした「街場」のがん相談者としての面も認められた。ナビゲーターのがん情報リテラシーの高さについて現場の医療者に伝え、理解を深めていただく必要がある。

チャットボット生成AIの代表としてChatGPT®の使用経験及び認識を尋ねた。使用経験のあるナビ

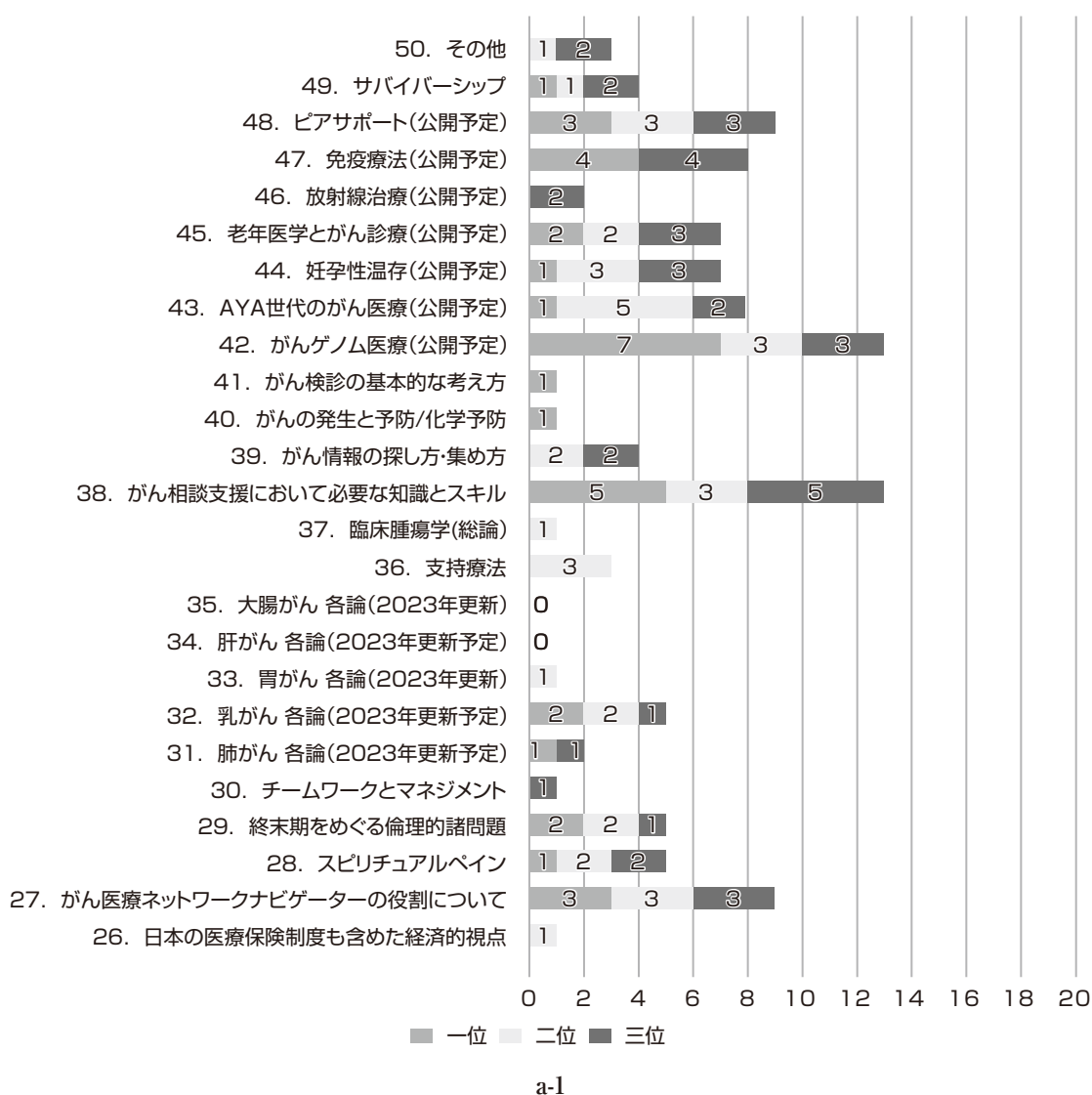


図5 生涯教育ワーキンググループからのニーズ調査 (1/3)

a: E-learning で履修された項目で、更なる情報・最新の情報を希望する項目 (希望順に3項目選択)。

b: 再掲上位13講義。

ゲーターは、生成 AI が作成した解答を自身で総合的に評価する能力を持っていると推測された。使用経験のないナビゲーターも、信頼性に疑問が残るが使用してみたいし将来に期待できると評価する傾向を認めた。学会として今後も生成 AI に関する情報を取り上げて発信していく必要があると考えられた。

e-learning で学んだテーマのニーズ調査を行った。相談業務(技法)に必要な項目、多くの「がん」に共通する項目のニーズが上位を占めた。生活や気持ち関する相談をナビゲーターが受けている可能性が示唆された。「がん医療ネットワークナビゲーターの役割について」のニーズが存在した事実を我々は重く受け止める必要がある。制度発足当初から漠然と受け止められてきたナビゲーターの役割を再度明確化する必要がある(図6)。コミュニケーションスキルセミナーの Follow up コース、学術大会、メーリングリストに基づいた Zoom® 会議「ナビまる」で発信し続ける必要がある。そこでは、ナビから、

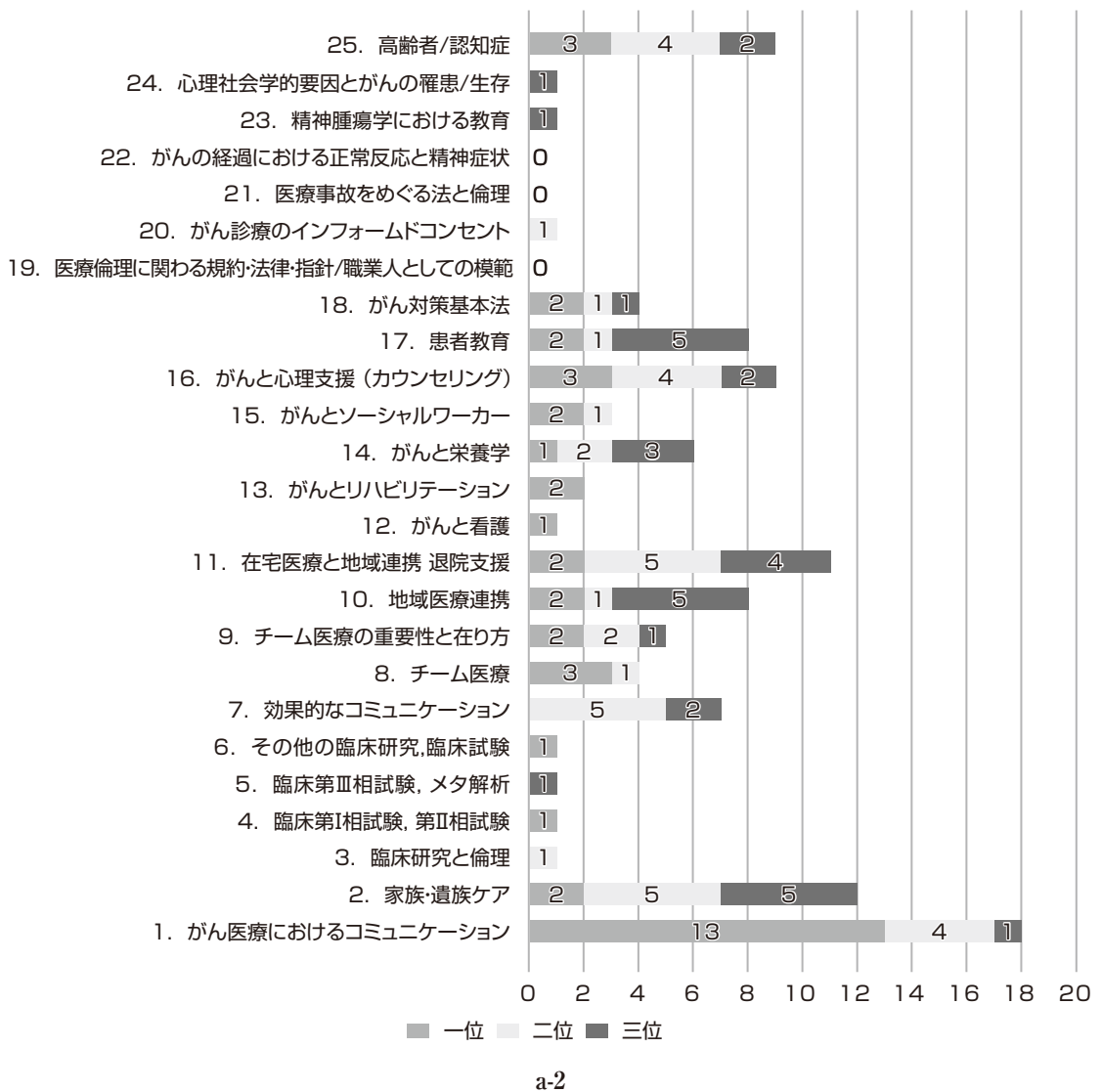


図5 生涯教育ワーキンググループからのニーズ調査 (2/3)

a: E-learning で履修された項目で, 更なる情報・最新の情報を希望する項目 (希望順に3項目選択).

b: 再掲上位13講義.

相談員から, 相談者から発信された具体的な好事例を共有することでナビゲーターの理解がより深まると期待される. 今後は様々な機会を利用して好事例の収集と共有に注力する必要がある.

本論文の論旨は, 第61回日本癌治療学会学術集会「認定がん医療ネットワークナビゲーター検証ワーキング生涯教育ワーキングによる合同ワークショップ」の発表, 討論に基づいて作成した.

文 献

- 吉田 稔, 森田 勝, 土岐 祐一郎, 他: 第60回日本癌治療学会学術集会「認定がん医療ネットワークナビゲーターによる検証ワークショップ」. 癌の臨床 67: 205-212, 2021
- がん対策推進基本計画 <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001138884.pdf> [2024/8/31access]

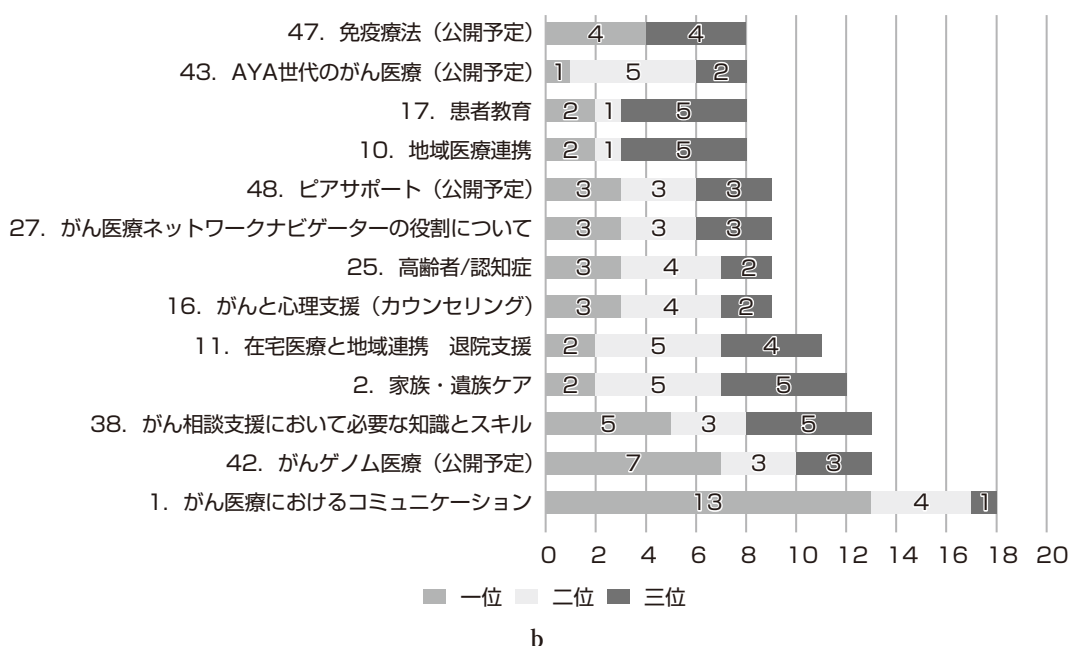


図5 生涯教育ワーキンググループからのニーズ調査 (3/3)

a: E-learning で履修された項目で、更なる情報・最新の情報を希望する項目 (希望順に3項目選択)。

b: 再掲上位13講義。

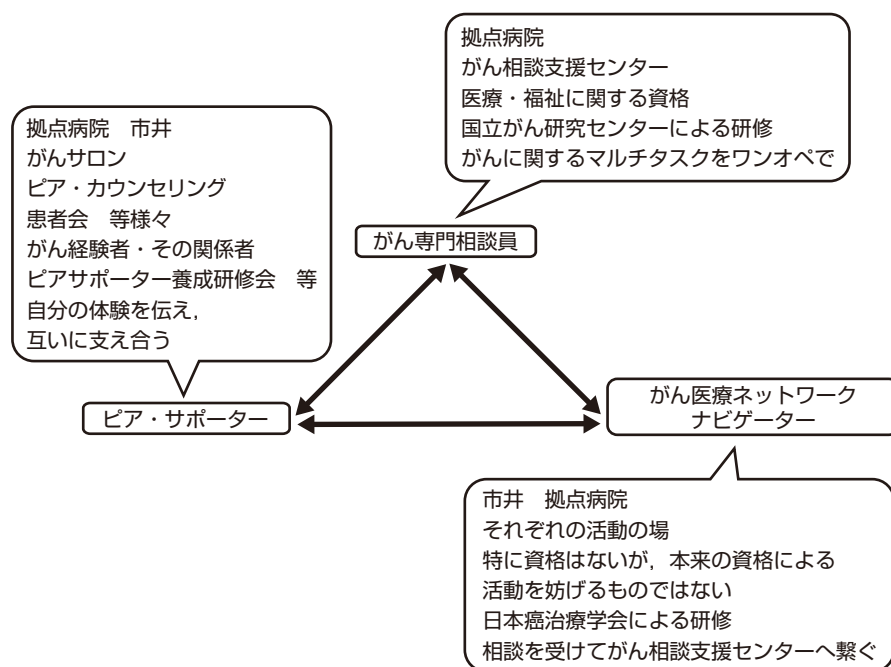


図6 がん相談に携わる者が築く三位一体の連携

特 別 寄 稿

第61回日本癌治療学会学術集会

認定がん医療ネットワークナビゲーター検証ワーキングと生涯教育
ワーキングによる合同ワークショップ

先生と語ろう：乳がんについて

吉田 雅行^{*1}^{*1} 聖隷健康診断センター・NPO 法人いかまい検診浜松

はじめに

第61回日本癌治療学会学術総会において、3日目の午前中に検証ワーキングと生涯教育ワーキングの合同セッションが検証ワーキング委員長の吉田稔先生・副委員長森田勝先生により企画された。

昨年のナビゲーターに対するアンケートの結果及び学会やワーキングでの議論を踏まえ、継続教育のニーズが高いことが確認された。そこで、ナビゲーターに提供可能な方略として、2つが提案された。

(1) 信頼できるインターネットサイトの紹介とメンテナンス：今回のアンケート調査の結果をもとに対応可能と考えられ、アンケートで今後活用が広がるであろう ChatGPT[®]についても触れられた。

(2) update された知識の解説：今回のニーズ調査の結果から、最初に、多くのニーズがあると予想される「乳がん」をテーマとする。具体的な方法としては、今後様々なテーマで学会の先生方のご協力をいただくことと、著作権許諾の負担を考え、司会者（ナビゲーター）のもとで、主題に沿ったナビゲーターの方々からの質問に専門の医師より口頭で答える形式が考えられた。図表スライドは特に必須ではないが、1～2枚提示されればより良い。

将来は“ナビまる交流会”の中で、一つのコーナーとして継続的に提供できればと考えられた企画が、『先生と語ろう-乳がんについて』である。

本稿では、そのプログラム内容及び企画段階、事前打ち合わせ、そして本番に至る過程を含め、記録に残すことを目的とした。

1 企画内容（学術総会プログラムより）

【認定がん医療ネットワークナビゲーター検証ワーキングと生涯教育ワーキングによる合同ワークショップ】

日時：2023年10月21日（土）13：45～15：15

会場：パシフィコ横浜 第6会場（会議センター 4F 411+412）

座長：吉田 稔（日本赤十字社 熊本健康管理センター）

森田 勝（九州がんセンター 消化管外科）

プログラム

13：45～13：50 開会のご挨拶 清家正博（日本医科大学付属病院 呼吸器内科）

13：50～14：10 アンケート調査及びニーズ調査報告

吉田 稔（日本赤十字社 熊本健康管理センター）

①ナビゲーターはどんな Web site を利用しているの？

②ナビゲーターと AI の将来 - ChatGPT®について

③生涯教育へのニーズ調査報告

● 14：10～14：40 先生と語ろう - 乳がんについて

司 会：南 秀明（シニアナビゲーター）

語り手：吉田雅行（聖隷健康診断センター）

14：40～15：10 総合討論 森田 勝（九州がんセンター 消化器外科）

15：10～15：15 閉会のご挨拶 調 憲（群馬大学大学院 総合外科学講座）

上記のプログラムで、生涯教育としての企画『先生と語ろう - 乳がんについて』において、南 秀明氏（シニアナビゲーター）の司会の元、私・吉田雅行（聖隷健康診断センター）が語り手を担当させていただいた。

2 今回の趣旨（本合同ワークショップの企画者・吉田 稔先生よりのご提案 メールの内容から抜粋を中心に

今回の趣旨は、先生にご負担をかけずに（スライドなどの準備も無理せずに）ナビまるなどで専門の先生にナビが困り事をお尋ねするような場面を想定しております。

吉田雅行先生には NPO でのご活躍も含めて乳がんについてお話ししていただければ幸いです。

・アンケート結果（対象：認定がん医療ネットワークシニアナビゲーター・ナビゲーター）から、生涯教育へのニーズ調査報告で、e-learning に対するニーズの上位は、

1. がん医療におけるコミュニケーション

2. がんゲノム医療

3. がん情報の探し方・集め方

4. 家族・遺族ケア

5. 在宅医療と地域連携 退院支援

上記の結果より、「乳がんのゲノム医療」についてお話しいただければ幸いです。

知識に関する事項は、学術大会、ナビまるになりますが、今回の「先生と語ろう」の反応を見たいと思います。吉田雅行先生におかれましては、「乳がんのゲノム医療」についてお話しいただければ幸いです。

南 秀行先生には、きっかけと、話題と、合いの手と、締めをお願いできればと存じます。

3 準備（座長の吉田稔先生、森田 勝先生、司会の南 秀明さんとの事前 打ち合わせより）

本企画（先生と語ろう-乳がんについて）は、14:10から14:40の30分間である。おそらく、それほど、多くの「ナビからの質問」（相談事）をお受けすることは、難しいと思われる。とは言うものの、会場から質問を求めても、必ずしも出ないかもしれない。「専門の先生にナビが困り事をお尋ねするような場面」を想定し、あらかじめ、いくつか、「ナビからの質問」（相談事）を準備しておいた方が良いかと思われた。

アンケートの集計結果を元に分析された、吉田稔先生の「第61回日本癌治療学会学術集会での認定がん医療ネットワークナビゲーターに関する企画について」の中の、

- (1) 利用したことがある情報サイトの上位（30件以上）
- (2) 上記情報サイトの信頼順位

の分析から、

「「がん情報リテラシー」は概ね適切であること、「日本癌治療学会」のHPの質の維持が大切であることが分かります。同時に、「がん予防」「がん検診」「緩和医療」「乳がん」への情報ニーズが高いことが伺われます。」とのことであった。

また、

- (3) e-learning に対するニーズの上位は、
 1. がん医療におけるコミュニケーション
 2. がんゲノム医療
 3. がん情報の探し方・集め方
 4. 家族・遺族ケア
 5. 在宅医療と地域連携 退院支援

などとなっております、

「(C) 知識に関する事項は、学術大会、ナビまるになります。今回の「先生と語ろう」の反応を見たいと思います。吉田雅行先生におかれましては、「乳がんのゲノム医療」についてお話いただければ幸いです。」

と記載されていた。

したがって、吉田稔先生のこのご提案をもとに、「乳がんのゲノム医療」に関して、

「専門の先生にナビが困り事をお尋ねするような場面」を想定して、あらかじめ、いくつか、「ナビからの質問」（相談事）を準備しておいた方が良と考えた。

勿論、これに縛られることなく、司会の南秀明さんが、相談員として、利用者さんから質問されて困ったことリストの中からピックアップしていただいて、いくつかヒントをいただきながら、作り上げて良いか考えた。私も聖隷浜松病院の相談室やがん診療支援センターにも聞いてみて、少し整理してみることとした。

私はまず、いただいたテーマの「乳がんのゲノム医療」について、皆様に正しい情報が提供できるように、情報収集しておくこととした。

以上の打ち合わせを踏まえて、司会の南秀明さんにより、以下のような筋書きがまとめられた。

- ①ごく簡単な主旨説明（南さんより）

- ②先生（吉田）紹介（南さんより）……………簡単なプロフィールの提供
③先生（吉田）の簡単なコメント（必要なら）
④質疑応答 シナリオ

(用意する質問)

- ・がん遺伝子パネル検査の保険収載：条件（標準治療がない……），遺伝子異常に合わせた薬が見つかる可能性，など
- ・家族性腫瘍との関係性：「がん遺伝子検査」と「遺伝学的検査」（生殖細胞系変異）の違い，乳がんので保険適用の条件，二次的所見による問題：専門へのつなぎ（カウンセリング），遺伝性乳がん卵巣がん症候群などの正確な理解，など
- ・がん遺伝子パネル検査で何が分かるのか（保険適用のパネル検査は？）
- ・第４期がん対策推進基本計画で検診の取り扱い（科学的根拠……）
- ・マンモグラフィ＋超音波検診の併用の有効性
- ・分子標的薬について

などについて、想定質問と回答を準備することとした。

(会場 + Web からの質問)

一旦 締めて、森田先生へつなぐ

以上のシナリオが準備された。

4 本番（先生と語ろう - 乳がんについて）

本番では、司会の南 秀明さんから、本セッションの主旨説明に引き続き、語り手の私の簡単な紹介がなされた。私からは、まず最初にNPO 法人いかまい検診浜松の活動などを含め、簡単に私の背景について紹介した。若干の前振りの乳がんに関する疫学的な情報提供をさせていただいたのち、時間も限られていることもあり、予め用意した乳がんに関してこちらからお話しするよりも、会場やWebからのご質問を受け、それに丁寧にお答えしていく流れとした。幸いというか流石というか、会場及びWebから、打ち合わせでも挙がっていたテーマについて質問が寄せられた。

- ・マンモグラフィー＋超音波検診の併用の有効性
- ・第4期がん対策推進基本計画で検診の取り扱い（科学的根拠……）
- ・遺伝性乳がん卵巣がん症候群などの正確な理解
- ・がん遺伝子パネル検査で何が分かるのか（保険適用のパネル検査は？）

などに関する質問が寄せられた。ナビまるの中で専門の先生にナビが困り事をお尋ねするような場面
を想定して準備を進めたが、嬉しいことに、期待通りの展開となった。特に、がん遺伝子パネル検査に
関する質問に回答する場面では、私が簡単に導入部分を説明したのち、会場に参加されていた委員の先
生の中に腫瘍内科の先生がおられたため、一番詳しいと思われる先生を逆指名させていただいた。がん
遺伝子パネル検査に関して、外来で患者さんに説明するように解説をお願いしたところ、快く多くを語っ
ていただいた。その後、さらに他のその専門分野の先生から「今の説明で、皆さんわかりましたか？」
とツッコミが入り、大いに盛り上がった。専門的な内容を患者さんや一般の方に、いかにわかりやすく
説明するか、その難しさを改めて実感させていただく場面となった。会場及び Web 参加の方からの質
問にお答えしていると、あっという間に持ち時間の 30 分が経過し、司会の南秀明さんに締めていただき、
総合討論の森田勝先生へつないで、役目を終えた。

おわりに

当初の目的（吉田稔先生のこのご提案）である、「乳がんのゲノム医療」に関するテーマを含めて、「専門の先生にナビが困り事をお尋ねするような場面」を想定して、あらかじめ、いくつか、「ナビからの質問」（相談事）を準備して本番に臨んだ。企画・座長の吉田稔先生，座長の森田勝先生，司会の南秀明さんの準備段階からのご助言や司会進行により，無事，務め上げることができたことに，改めて関係の皆様にご感謝申し上げますとともに，今後の認定がん医療ネットワークシニアナビゲーター・ナビゲーターの生涯教育へのニーズに応えられる一つのモデルとなれば幸いです。